

元寮生・訓練生は今・・・



元気かな～



2005年1月から2008年3月まで在寮していた、神奈川県出身、現在39歳の〇目君が餅つきに遊びにきてくれたので、話を聞きました。今年度は七夕にも文化祭にも顔を出してくれました。

中学2年の夏から不登校になり、その後ひきこもった。高認を受けたが、落とした科目(単位)をNHK学園に入学し取得した。19歳の頃、親がYSCに訪問を依頼。訪問期間は半年から1年位だったと思う。訪問の日はリビングがキレイになるので、日時を知らされなくても気づいて毎回バックレていた。実際訪問員に会ったのは最後の2回位だったと思う。いろいろ提案をされたが、何もできなかった。“最後の日”は、リビングが片付いていないのに訪問員が3人来て、半ば強引?に車に乗せられ、その時点で観念した(笑)。寮に着いたのがちょうど昼時で、寮生達がたくさんいた。正直とんでもない所に来てしまったな!と思ったのを今も鮮明に覚えている。ひきこもっている人に対して暗いイメージがあったので、入寮は嫌だった。でも、実際一緒に過ごしてみたら、意外にみんな普通の人なんだなと思った。そういえば入寮して1か月でバックレた。一週間程してスタッフが実家に来て連れ戻された(笑)。寮の居心地はよく、特に不満があって実家に戻ったわけではなかったので、すんなり戻って来た記憶がある。

自分は中学も高校もまともに行っていなかったの、ほぼ青春がなかった。寮で色々なイベントに参加したことが、自分にとって忘れられない記憶で青春の場所。誰しもあるそういう時間をココで過ごせたから、未だにYSCのイベントに足を運んでいるんだな～と、改めて思う。自分は寮で青春のやり直しをしている感覚だったので、キャンプ場にまで麻雀やゲームを持ち込み夢中になる寮生達に対して、せっかくの機会なのに、ここまで来てやるのか!?とよく思っていた(笑)

ひきこもっている時は、自分の現状すら把握できていないのに、時間が経てば、普通になれるんじゃないか・・・と漠然と思っていた。親もだんだん何も言わなくなってきて、それが自分にとっては日常になっていた。前の理事長がよく言っていた“奇妙な平和”がまさにあの当時の実家にあった。あの時訪問がなかったら、絶対状況は改善しなかったと思う。今は訪問を依頼してくれた親に感謝している。

(遊遊館だより2月号につづく)

◆今月の寮生・訓練生の内訳◆

【年齢】16歳～42歳 【平均年齢】28.0歳(訓練生が入れ替わると大きく変動します)

【状況】12月末で訓練生から1名寮生となり、新しい仕事に向けてバイトを辞めた者、新しいバイトが決まった者、大学受験の追い込みでへロへロな者、大学の全ての単位を取り終えた者。次のステージに進もうとみんな一生懸命です。

◇編集後記◇

2024年は60年に一度の甲辰(きのえたつ)の年で、大きな変化がある年、特に成功が期待できる縁起の良い年だそうです。しかし、元日から大きな地震や事故、事件が連日報じられ、不安なスタートとなりました。が、改めて防災意識と備蓄を見直し、一人ひとりが今やるべきこと、やれることをやろう!と気持ちを引き締める機会にもなったように思えます。

あまり目標を立てない私ですが、今年は『動く』を抱負にしたいと思います。コロナ明けの物価高騰で渋っていた趣味の国内外への一人旅、運動不足の解消です。みなさんはどんな1年にしたいですか?

今月の1枚



正月明け5日の回収作業。大量の空き缶とペットボトルを回収しました。写真に納まりきらない部分にもペットボトルが・・・